

令和3年度一番茶実収報告

京都府農林水産技術センター
農林センター 茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	本年	2020年	前5か年	平年
自然仕立て	5月4日	5月6日	5月6日	5月6日
弧状仕立て	5月4日	5月3日	5月3日	5月6日

2. 生葉収量 (kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	858.8 ± 110.5	137	594.6 ± 53.5	95	625.5 ± 71.0	100
弧状仕立て	203.2 ± 19.0	64	277.8 ± 53.9	88	316.2 ± 71.6	100

○指数は前5か年平均を100とした場合の比

3. 百芽重 (g)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	百芽重	指数	百芽重	指数	百芽重	指数
自然仕立て	65.1 ± 2.9	110	60.7 ± 3.7	103	59.1 ± 7.7	100
弧状仕立て	52.8 ± 8.0	108	38.8 ± 6.8	79	49.1 ± 9.9	100

4. 新芽数 (本/m²)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	628.6 ± 47.4	141	457.0 ± 54.2	103	445.6 ± 82.4	100
弧状仕立て	1181.7 ± 190.1	96	1920.0 ± 348.6	155	1236.0 ± 320.6	100

○自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

5. 出開き度 (%)

仕立て法	本年	前年	前5か年平均
自然仕立て	60.2	40.2	46.0
弧状仕立て	21.6	55.1	60.8

6. 概要

(1) 摘採日

本年の一番茶摘採日は、自然仕立て園では、前5か年平均より2日早い5月4日、弧状仕立て園では、前5か年平均より1日遅い5月4日となった。

(2) 生葉収量

自然仕立て園では、生葉収量は前5か年平均より多く、弧状仕立て園では、前5か年平均と比べて少なかった。自然仕立て園では新芽数が多かったことに加え、生育が順調に進んだことが主因であると考えられる。弧状仕立て園においては、凍霜害が一因と考えられる。

(3) 病害虫の発生状況

当所におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺状況は、チャノコカクモンハマキの誘殺盛期は平年比やや遅く4月第5半旬(平年は4月第4半旬)であり、誘殺数は3月～5月第6半旬で平年より多かった(平年比163.1%)。チャノホソガの越冬世代の誘殺盛期は平年比早く3月第6半旬(平年は5月第2半旬)であり、誘殺数は3月～5月第6半旬で平年並み(平年比96.3%)であった。

(4) 茶市場の出荷状況

5月25日現在の全農京都茶市場への出荷量は、対前年度同回までの累計比で、てん茶が51%、揉み茶が66%となっている。

手摘みてん茶	: 49%	はさみ摘みてん茶	: 43%
手摘み玉露	: 95%	はさみ摘み玉露	: 56%
煎茶	: 63%	かぶせ茶	: 46%